⑶ 特　設　展

①　特設展「時空を旅する作家　辻邦生展　生誕100年」

期　間　令和７年４月26日（土）～６月22日（日）　51日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　作家・辻邦生（1925～1999）の生涯と代表作を紹介した。辻邦生資料を所蔵する学習院大学史料館の全面的な協力により、原稿、創作ノート、書簡などの直筆資料、愛用品などを展示。生誕100年のメモリアルイヤーにあわせて、ゆかりのある各地で行われる展覧会と連携を図った。

展　示　資　料　一　覧

＊は学習院大学史料館蔵、無印は当館蔵。

辻邦生が愛用したトランク・カメラ・サングラス・地図・時刻表・
小説の構想などを記したメモ帖（1983年～1994年）＊
小学校時代の文集　1935（昭和10）年12月10日　＊
小学校時代の文集　第4号　1937（昭和12）年3月22日　＊
北杜夫　辻邦生宛書簡　1948（昭和23）年3月10日　世田谷文学館蔵
辻邦生　北杜夫宛書簡　1948（昭和23）年3月27日　＊
模型　国分寺の家　＊
パリ留学中のスケッチブック＊
「廻廊にて」原稿　＊
「廻廊にて」創作ノート　＊
辻邦生の描いた「MANGUA八ヶ岳」　＊
「埴谷雄高氏との出会い」原稿
「感覚のめざすもの―森有正論の試み」原稿
「時の扉」新聞切り抜き
模型　軽井沢山荘　＊
辻邦生　北杜夫宛はがき　1956（昭和31）年4月16日　＊
北杜夫　辻邦生宛書簡　1958（昭和33）年11月14日消印　世田谷文学館蔵
北杜夫　辻邦生宛書簡　1959（昭和34）年12月12日　世田谷文学館蔵
辻邦生　北杜夫宛書簡　1960（昭和35）年5月21日　＊
辻邦生　北杜夫宛書簡　1959（昭和34）年9月28日　＊
辻邦生　北杜夫宛書簡　1960（昭和35）年10月17日　＊
「夏の砦」原稿　入稿／第二稿　＊
「夏の砦」創作ノート　＊
『夏の砦』チェコ語訳　1985年　＊
「安土往還記」草稿＊
「安土往還記」創作ノート　＊
『安土往還記』1968（昭和43）年8月　筑摩書房　＊
『安土往還記』英訳　1989年・1996年　＊
「天草の雅歌」創作ノート　＊
「天草の雅歌」執筆のための資料　＊
『天草の雅歌』1971（昭和46）年4月　新潮社　＊
辻邦生の父靖剛の使用した薩摩琵琶「青霄」＊
辻三壽吉氏叙勲記念写真　1975（昭和50）年5月26日　＊
「琵琶学」第22号　1982（昭和57）年5月10日　＊
「銀杏散りやまず」第1回／第3回／第8回 原稿　＊
辻家の系図が書かれたメモ　＊
『甲斐志料集成 11 甲州儒医列伝』からの抜書メモ＊
「銀杏散りやまず」創作ノート　＊
辻守昭　辻邦生宛書簡　1981（昭和56）年12月1日　＊
辻邦生　高室陽二郎宛書簡　1989（平成元）年11月4日
徳川家印判状　1589（天正17）年10月28日　山梨県立博物館蔵
辻氏由緒書　山梨県立博物館蔵

辻家文書より「春秋」初代辻保順守瓶の日記・「春秋」初代守瓶の日記に二代守敬が書き込んだもの・
「十字亭春秋」守敬の日記・「東都日記」守敬の実務記録　山梨県立博物館蔵
「明治三十九年収支口訳簿」＊
辻直記　辻三壽吉宛書簡　1906（明治39）年6月1日
『銀杏散りやまず』校正刷り＊
モノオペラ「銀杏散りやまず」パンフレット　1994（平成6）年11月6日
辻邦生　辻守昭宛書簡　1995（平成7）年8月9日　個人蔵
「西行花伝」第１回／最終回 原稿　＊
『西行花伝』校正刷り　＊
谷崎潤一郎賞 賞状・副賞　＊
『西行花伝』私家本　1997（平成7）年6月＊
『西行花伝』私家本　1997（平成7）年6月 印傳博物館蔵
「嵯峨野明月記」原稿　＊
「嵯峨野明月記」創作ノート＊
『嵯峨野明月記』1971（昭和46）年9月　新潮社　＊
「背教者ユリアヌス」第10回／第24回 原稿　＊
「背教者ユリアヌス」創作ノート　＊
「背教者ユリアヌス」私家版＊
第十四回毎日芸術賞 賞状・副賞　1973（昭和48）年1月17日　＊
辻邦生　近藤信行宛はがき　1970（昭和45）年8月6日消印
「春の戴冠」第1回／最終回 原稿　＊
「春の戴冠」創作ノート　＊
フランス国立図書館利用証　＊
「帰ってきた人」（「ある生涯の七つの場所」第10回）原稿＊
「祭の果て」（「ある生涯の七つの場所」第22回）原稿
「吹雪」（「ある生涯の七つの場所」第25回）原稿　＊
「夜明けの前の庭」（「ある生涯の七つの場所」第39回）原稿　＊
「ある生涯の七つの場所」章立てのメモ　＊
「フーシェ革命暦」第1回／第2回 原稿　＊
万年筆・ボールペン・鉛筆・消しゴム・落款　＊
三匹のクマちゃん　＊
東京・高輪の自宅書斎で使用した机・いす　＊
『辻邦生歴史小説集成』全12巻　1992（平成4）年9月～1993年10月　岩波書店＊
このほか、辻邦生の著書、「近代文学」「文藝首都」「展望」「新潮」「海」「中央公論」などの雑誌







②　特設展「作家の絵ごころ　視覚で楽しむ文学展」

期　間　令和７年７月12日（土）～８月24日（日）　39日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　夏目漱石や芥川龍之介ら作家直筆の絵画をはじめ、作家が画家とともに装幀に携わった書籍や雑誌を展示。また、多くの画家たちが表紙や紙面に作品を寄せた俳誌「雲母」の美の世界などを紹介した。視覚的に美しい書画、装幀・挿絵の原画をはじめ、作家と画家の交流を表す書簡など、文学と美術のコラボレーションを楽しめる館蔵資料をご覧いただく機会とした。

展　示　資　料　一　覧

＊の資料は寄託資料

夏目漱石

津田青楓画「漱石山房図」軸装
夏目漱石著『道草』1915（大正4）年10月　岩波書店
夏目漱石著『明暗』1917（大正6）年1月　岩波書店
夏目漱石画　ミレー「鵞鳥を追う少女」模写
夏目漱石著『こころ』1914（大正3）年9月　岩波書店
夏目漱石著『吾輩ハ猫デアル』上編・中編・下編 1905（明治38）年10月～1907年5月　大倉書店・服部書店
夏目漱石著『漾虚集』1906（明治39）年5月　大倉書店・服部書店
夏目漱石著『虞美人草』1908（明治41）年1月　春陽堂
夏目漱石著『草合』1908（明治41）年9月　春陽堂
夏目漱石著『彼岸過迄』 1912（大正元）年9月　春陽堂
夏目漱石　津田青楓宛書簡　額装 1913（大正2）年6月18日

芥川龍之介

芥川龍之介画　風景画　額装 1909（明治42）年
芥川龍之介画　女性像　額装 1910（明治43）年
芥川龍之介旧蔵　スケッチブック 1915（大正4）年前後（推定）
芥川龍之介画　亀　一枚物
芥川龍之介自画賛「野茨にからまる萩のさかりかな」
芥川龍之介自画賛「青蛙おのれもペンキぬりたてか」
『黄雀風』見返し原画と扉題字
『支那游記』装幀校正刷り
『黄雀風』装幀校正刷り
『黄雀風』1924（大正13）年7月　新潮社
『支那游記』1925（大正14）年11月　改造社
芥川龍之介画「紙窓風淅瀝」額装
芥川龍之介画「水虎晩帰之図」額装 1923（大正12）年8月
芥川龍之介自画賛「抱虚懐欲歩古今」一枚物
芥川龍之介「河童」草稿
芥川龍之介筆「炎天にあがりてきえぬ箕のほこり」短冊

詩歌と美術

飯田蛇笏旧蔵　高浜虚子句稿貼り交ぜ屏風
小川千甕「甲州紀行画巻」1928（昭和3）年11月
飯田蛇笏・小川千甕　高室呉龍宛はがき　1928（昭和3）年11月7日消印
高浜虚子「遠山に日の当りたる枯野哉」軸装
近藤浩一路画「帰樵」軸装 1900（明治33）年11月
近藤浩一路句集『柿腸』 1934（昭和9）年1月

高浜虚子筆・平福百穂画「春の水人の行衛をながれけり」軸装 1916（大正5）年3月12日
近藤浩一路自画賛「光堂扉は裏見せて花は昼」短冊
近藤浩一路　飯田蛇笏宛書簡　1951（昭和26）年1月17日
石井柏亭画「葡萄之図」軸装
与謝野晶子著『みだれ髪』1901（明治34）年8月　東京新詩社
与謝野晶子著『火の鳥』1919（大正8）年8月　金尾文淵堂

「雲母」ゆかりの画家たち

朝井閑右衛門画「蛇笏・三好達治・龍太」額装
朝井閑右衛門画「雲母」表紙原画　＊
長谷川朝風画・松村蒼石句「たわたわとうすら氷に乗る鴨の脚」軸装
長谷川朝風句集『木偶微笑』1950（昭和25）年7月　玉虫発行所
長谷川朝風画・飯田蛇笏句「蝶々にとび去られたる河童子」
長谷川朝風画「雪の道」色紙
長谷川朝風自画賛「新涼の鈴をたまはる猫の胸」短冊
榎本虎山句・三枝茂雄画「花を見て地獄の方へいく佛」軸装
三枝茂雄自画賛「すいちよの青の命は露の中」一枚物
三枝茂雄筆自画賛「焔画くはやがて葬りの備へ哉」短冊
三枝茂雄筆自画賛「暮雲処々放光如来冬に入る」短冊
辻葦夫画「山河」額装　1955（昭和30）年頃
「雲母」第41巻5月号　1955（昭和30）年5月
辻蕗村自画賛「山に来て何を踏みても春隣り」色紙軸装
辻蕗村『樹影』句稿
辻蕗村句集『樹影』1973（昭和48）年7月　雲母社
のむら清六画「雲母」表紙原画額装　＊
のむら清六　飯田龍太宛はがき　1968（昭和43）年8月23日　＊
のむら清六　飯田龍太宛書簡 1973（昭和48）年11月1日　＊
のむら清六　飯田龍太宛はがき 1975（昭和50）年10月28日　＊
細田寿郎句・のむら清六画「ゆく夏の泉をのぞく草の中」短冊
のむら清六　細田寿郎宛はがき　1985（昭和60）年12月7日
小川芋銭画「雲母」表紙原画
平福百穂画「雲母」表紙原画
岸田劉生画「君子独居」（「雲母」扉絵原画）
河野通勢画「信州柏原一茶俳諧堂図」（「雲母」表紙原画）
「雲母」第13巻第1号　1927（昭和2）年1月
川端茅舎　飯田蛇笏宛書簡　1926（大正15）年11月11日
大場芳男画「雲母」表紙原画　＊
宅間正一画「雲母」表紙原画　＊
飯田蛇笏画　北海道旅行のスケッチ 1950（昭和25）年5月　＊
飯田蛇笏「えぞ富士は春しぐれする蝶の冷え」短冊
伊藤凍魚編『北方羇旅の諷詠』1951（昭和26）年3月　花樺会
飯田蛇笏　高室呉龍宛書簡　1930（昭和5）年3月16日
「雲母」発送用封筒

秋山秋紅蓼

秋山秋紅蓼自画賛「花はぎつしり咲いてあかつき」軸装
秋山秋紅蓼自画賛「秋空のあのやまもこの山もふるさと」軸装
秋山秋紅蓼自画賛「春の白い不二に犬が来てゐる野の道」色紙
秋山秋紅蓼自画賛「あさつゆのあさかほことにむらさき」一枚物

秋山秋紅蓼自画賛「かせのあるしたをすずしく行」一枚物
秋山秋紅蓼自画賛「ひらひらとすゞしいかぜにふれる」一枚物

檀　一雄

檀一雄画　父　水彩画　＊
檀一雄画　母　水彩画　＊
檀一雄画　自画像　＊
檀一雄ほか「芙蓉帖」1942（昭和17）年7月7日　＊
檀一雄ほか「散菊帖」1942（昭和17）年7月8日　＊
檀一雄著『花筐』1937（昭和12）年7月　赤塚書房
檀一雄画　自画像　額装　＊
檀一雄画　階段のある駅　水彩画　＊
檀一雄画　風景水彩画　＊
檀一雄画　中国でのスケッチ帳　1944（昭和19）年～1945年頃　＊
檀一雄・母とみ合作「観樹経行」一枚物　＊
檀一雄筆「屋久島哀傷」一枚物　＊
檀一雄画「秋果百穎」額装　＊
檀一雄画「奇泡亭濫齋之図」1972（昭和47）年12月21日　＊
檀一雄自画賛「落日を拾ひに行かむ海の果」色紙　＊
「ポリタイア」復刊第1巻2号　檀一雄追悼特集号　1976（昭和51）年7月

装画の美

井伏鱒二著　白根美代子絵『トートーという犬』1988（昭和63）年4月　牧羊社
白根美代子画『トートーという犬』挿絵原画
萩原英雄画「イソップ絵噺」木版画　1976（昭和51）年

井伏鱒二の絵

井伏鱒二画　絵付け皿　梅ヶ枝旅館旧蔵
井伏鱒二画　絵付け皿
井伏鱒二画　富士川流域の絵地図
井伏鱒二画　太宰治 賛　高田英之助像

山梨ゆかりの作家

山田貞一画『女生徒』表紙原画
太宰治著『女生徒』1939（昭和14）年7月　砂子屋書房
太宰治　山崎剛平宛はがき　1939（昭和14）年6月9日午前消印
太宰治　山崎剛平宛はがき　1939（昭和14）年6月9日午後消印
太宰治　山崎剛平宛はがき　1939（昭和14）年6月12日消印
太宰治　山崎剛平宛はがき　1939（昭和14）年6月27日消印
高橋忠弥画『楢山節考』装幀原画一式
深沢七郎著『楢山節考』1957（昭和32）年2月　中央公論社
深沢七郎著『楢山節考』普及版　1958（昭和33）年5月　中央公論社
谷内六郎画『笛吹川』装幀原画一式
深沢七郎著『笛吹川』1958（昭和33）年4月　中央公論社

山の文学と絵画

茨木猪之吉画・小島烏水序文「甲斐のやま山」画帖　1935（昭和10）年12月
茨木猪之吉画・小暮理太郎題「夏草甲州道中」画帖　1938（昭和13）年初秋
足立源一郎画「八ヶ岳赤岳と阿弥陀岳甲斐大泉にて」額装　1960（昭和35）年3月
足立源一郎画「瑞墻山新秋　富士見平にて」額装　1966（昭和41）年10月

足立源一郎画「初夏の甲斐駒日野春にて」額装　1970（昭和45）年
足立源一郎画「白頭山天池畔大正峯下幕営地にて」額装　1942（昭和17）年8月2日
足立源一郎画「南アルプス」スケッチ折帖　1931（昭和6）年4月30日～5月3日
足立源一郎著　自装本『山に描く』1939（昭和14）年9月　古今書院
足立源一郎著　自装本『日本の山旅』1970（昭和45）年4月　茗溪堂







③　新収蔵品展　創作の生まれるところ

期　間　令和８年１月31日（土）～３月22日（日）　43日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　令和７年に新たに収蔵した資料より、樋口一葉・飯田蛇笏・芥川龍之介・村岡花子・山本周五郎・山崎方代・飯田龍太などの、原稿や手紙、書画などを展示。直筆の資料から作品が生み出されるところを想像してもらい、親しみやすい表示や表現により、気軽に観覧してもらえるよう文学資料を紹介した。

展　示　資　料　一　覧

芥川龍之介「お律と子等」草稿　寄託資料
中村星湖「農村教育と文芸」原稿
「教育」第1巻第7号　1933（昭和8）年10月
辻　嵐外「月あり月はまどかに明らか也　花あり花は芳はしく紅ゐなり　雪あり雪は清く白妙なり　鳥あり鳥は月雪花を聲よくうたふものとなむ」軸装
樋口一葉　草稿
中村不折「すがりゆく鉄のくさりもあやしきに足下遠く雲わきいづる」軸装
与謝野晶子「旅人にこゝろをおきて少しづゝちりつる雪がたけなはにふる」軸装
伊藤生更「八が嶺の麓の村にはやく寝て暗がりにものを云ふぞしたしき」軸装
飯田蛇笏「行くほどにかげろふ深き山路哉」軸装
飯田蛇笏「落月を踏む尉いでし神楽哉」軸装
飯田蛇笏「やよひ尽山坂の靄あるごとし」軸装
飯田蛇笏「後山の月甕のごとしはつ昔」軸装
飯田蛇笏「谷梅にとまりて青き山がらす」軸装
飯田蛇笏「つらなりて雪岳宙をゆめみしむ」短冊
飯田蛇笏「鰻かくや皃ひろやかに水の面」短冊
飯田蛇笏　印譜
飯田蛇笏「讃」原稿
飯田蛇笏　木俣修宛はがき　1950（昭和25）年12月6日
飯田龍太　木俣修宛はがき　1950（昭和25）年5月29日
飯田蛇笏　木俣修宛はがき（2通）1951（昭和26）年3月10日
飯田龍太「ともどもに月日はるけき小春かな」軸装
飯田龍太「ともどもに月日はるけき小春かな」書付皿
飯田龍太　伊藤俊之助宛書簡　1988（昭和63）年3月6日
飯田龍太「三伏の闇はるかより露のこゑ」色紙
飯田龍太「東門居・秀句」原稿
「雲母」1982（昭和57）年10月号
飯田龍太「飯田龍太集」自選句 原稿・「自作について」（自作ノート）原稿
飯田龍太「恒心の旅懐」原稿
飯田龍太「晴朗と節度と」原稿
飯田龍太「鷲谷七菜子の世界」原稿
飯田龍太　宗田安正宛書簡　1974（昭和49）年（推定）12月8日
飯田龍太　宗田安正宛書簡　1985（昭和60）年（推定）3月28日
村岡花子「わたしの愛読の作家―山本周五郎先生のこと―」原稿
「現代少年文学」№18　1967（昭和42）年6月
村岡花子「子どもずいひつ　アメリカの子ども」原稿
「現代少年文学」№22　1968（昭和43）年7月
柳原白蓮「大自然のちからのまへに人の子は何をかおもはむたゞ祈るべき」色紙
柳原白蓮　歌集『地平線』1956（昭和31）年6月 ことたま社
山本周五郎「赤ひげ診療譚」第6回原稿
「オール讀物」1958（昭和33）年9月号

山本周五郎「四季 三 旅館について（一）～（三）」原稿
山崎方代「まつ黒くすみたる馬の目の中に釜無川が流れいる」軸装
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
山崎方代「なまよみの甲斐の源氏のすえゆえに一度出でて立たねばならぬ」軸装
山崎方代「愛の序章」1972（昭和47）年10月9日
山崎方代「笛吹の流れをのぼる魚の群信玄公はまだ生きておる」短冊
山崎方代「うれしくて泣けば泪がこぼれ来る雪割草は白い花なり」短冊
「短歌」1975（昭和50）年5月号
徳田秋声「元朝の心荒びぬ午すきて」軸装
田山花袋「冬日詠鳥私歌 此冬のさむさしられていつよりか去ることはやしもりの小とりは」軸装
田山花袋「潮聲奔蕩似驚雷 遙見分洋涛萬堆 別有舟人騰如斗 海以缺處一帆成」軸装
田山花袋「宵深竟到清津浦 脈々漱生響如崩 地狭知街半憑麓 海冥伺舶大如鵬 層楼吾酔数盃酒 孤枕夢遙残夜鐙 京北朝鮮此湾最 可期佗日一隆興」軸装
坪内逍遙「「人形の家」と東京の観客」原稿
高安月郊「イブセンの女主人公」原稿
草野心平「紅梅 天心に月のギヤマン」色紙
前田夕暮「出ミづがはあからにごりてながれたりつちよりにじハわきたちにけり」色紙
中村草田男「炎熱や勝利の如き地の明るさ」色紙
泉鏡花「雪洞をかざせば花の梢かな」軸装
山口誓子「麗しき春の七曜またはじまる」軸装
山口誓子　句集『七曜』1942（昭和17）年9月 三省堂
山口誓子「海に出て木枯帰るところなし」色紙
高村光太郎　吉田精一宛はがき1946（昭和21）年12月8日
井伏鱒二　吉田精一宛書簡　年不明4月6日
寄せ書き「一九四九年四月九日 第五十八回誕生日を祝して」
大岡信　吉田精一宛はがき1979（昭和54）年11月19日消印
山口誓子　吉田精一宛書簡　1949（昭和24）年3月17日
松岡譲　吉田精一宛書簡　1967（昭和42）年7月27日
松岡譲　吉田精一宛書簡　1967（昭和42）年6月26日
清水比庵　川合玉堂宛書簡　年不明11月30日
三枝佐枝子　舟橋聖一宛書簡　1969（昭和44）年2月23日
和田芳恵　舟橋聖一宛書簡　1975（昭和50）年2月4日
熊王徳平　多田裕計宛はがき　1976（昭和51）年7月12日
小柳津浩　戯曲「汽笛」草稿
松永伍一「月光のメルヘン」原稿
松永伍一「月光よ、さらば」原稿
「松永伍一　絵の遊び　月光のメルヘン展」リーフレット
松永伍一 画「ベネチュア」
津島佑子「ゴミ昇天 十五号埋立地と世田谷清掃工場を訪ねて」原稿
「ぽれーどる」1　1973（昭和48）年4月
津島佑子《新鋭書下ろし作品≫『生き物の集まる家』広告ポスター
津島佑子『生き物の集まる家』1973（昭和48）年4月　新潮社
映画「人間失格」パンフレット
映画「ヴィヨンの妻 ～桜桃とタンポポ～」パンフレット
映画「ピカレスク」台本
映画「火宅の人」スチール写真 テーマ曲レコード 特別鑑賞券リーフレット パンフレット
水上勉「志村博子さんのこと」原稿
「木綿」第43号　1996（平成8）年9月
志村史夫『漱石と寅彦 落椿の師弟』原稿
志村史夫『漱石と寅彦 落椿の師弟』2008（平成20）年9月 牧野出版